令和６年度全国学力・学習状況調査の結果について

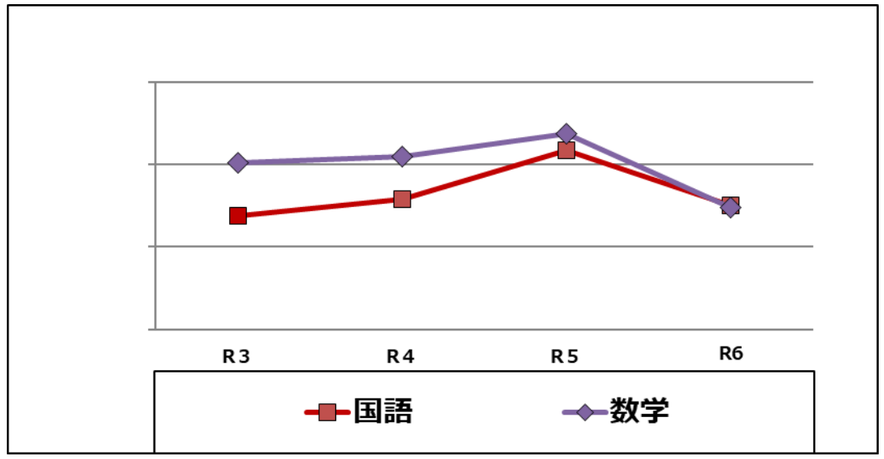
令和6年10 月
枚方市立第四中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※ 調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校の経年をお知らせします。



<学力調査結果の概要>

〇国語について
→ タブレット利用による自動変換機能の影響が出ている部分はあると考えられるため、漢字を書く機会を増やしていかなければならない。また、図や表から考えを読み取るような問題を実施するだけでなく、添削などを通じて文章の書き方や読み取り方を考えさせる授業の作成が必要になってくる。

〇数学について
→ 問題の意図を把握し、数学的な用語を使って説明する力はついてきている。一方で無答率が全国と比較し非常に高い。解決の糸口が分からないとそもそも解答しようとしない生徒が多くいる。粘り強く問題解決できるような課題を授業の中で取り扱ったり、定期テストについても出題の工夫などにより無答率の低下を目指していきたい。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる

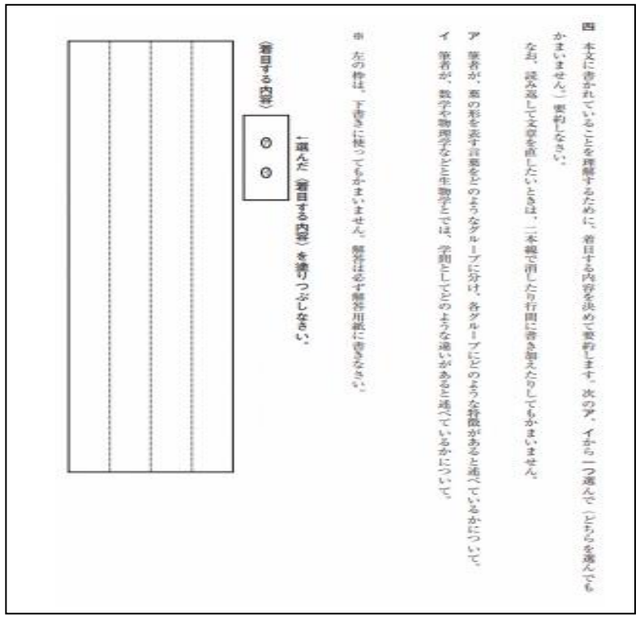
三 話し合いの一部 の｜部分③「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という発言について問うたものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、具体例をでしながら述べている。
2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。
4 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例をでしながら述べている。

	正答率	無解答率
本校	50.2%	0.5%
全国	44.0%	0.5%

（考察）
話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめ問題は大阪府や全国平均に比べて高くなっている。また、大問4一短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する問に関しても高い成果が出ている。班活動やペア活動で自分の意見を説明する活動の実践。また表現技法を必ず用いて行う創作活動が結果に結びついていると考えられる。

【課題】 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる



四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（）どちらを選んでもかまいません。）要約しなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、筆の形を表す言葉をどのような多グループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。
イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

（着目する内容）
◎ ◎

一つ選んだ（着目する内容）を書きつぶしなさい。

	正答率	無解答率
本校	43.0%	9.5%
全国	42.6%	8.4%

（考察）
文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題では、正答率が他の問題に比べて低くなっている。また、大問3三、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題では未回答が１割以上いる。

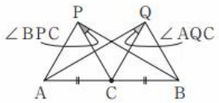
<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

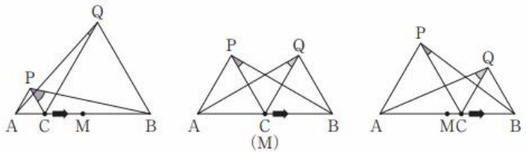
事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる

（2）健太さんは、線分ABの中点に点Cをとった場合に∠AQCと∠BPCが等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。



そこで、次の図３のように、線分ABの中点をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に∠AQCと∠BPCの大きさがどうなるかを調べ、下のようにまとめました。

図３



調べたこと

○ 点Cが点Aから点Bに近づくにつれて、∠AQCは大きくなり、∠BPCは小さくなる。

○ 点Cが線分ABの中点のとき、∠AQCと∠BPCは等しく、どちらも30°である。

	正答率	無解答率
本校	36.2%	1.4%
全国	26.7%	4.5%

（考察）

図形の性質に関して、実際に解決した問題をもとに新たな性質を発見できるかどうかを問う設問では、問題の意図をしっかりと把握し、粘り強く問題を解決しようとする姿勢が見られた。普段の授業や定期テストなどで、このような自分で主体的に新たな性質を見いださせたり解決させるための方法を思考させたりする授業や出題をおこなってきたことが成果となった。

【課題】

二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる

（1）ストーブの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pでy軸（じく）と交わっています。点Pのy座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでの中から正しいものを１つ選びなさい。

ア　ストーブを使用し始めるときの灯油の残量

イ　ストーブを使用し始めるときの時間

ウ　「強」の場合のストーブの１時間あたりの灯油使用量

エ　「弱」の場合のストーブの１時間あたりの灯油使用量

	正答率	無解答率
本校	81.0%	1.4%
全国	83.4%	0.8%

（考察）

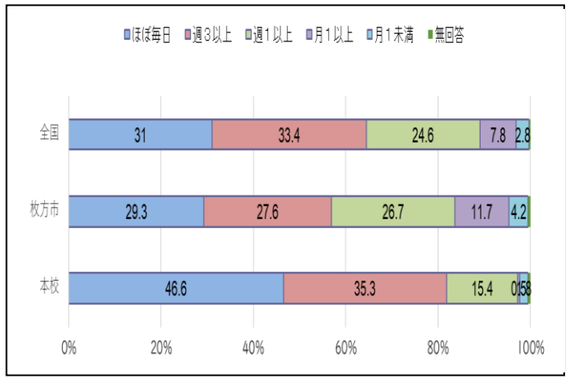
２つのグラフについての特徴や、グラフ上の点があらわすものの解釈について理解が乏しい。要因として問題文が長くなることにより、出題意図をうまく読み取ることができず、問題文の読解自体をあきらめてしまっていると考えられる。

質問紙に関する調査

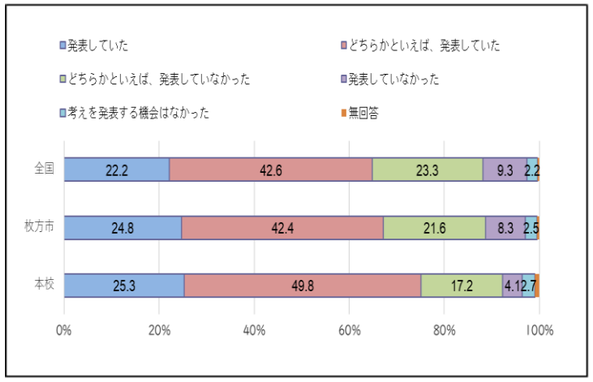
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

1、2年生のときに受けた授業で、PC･タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。



1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫していましたか。



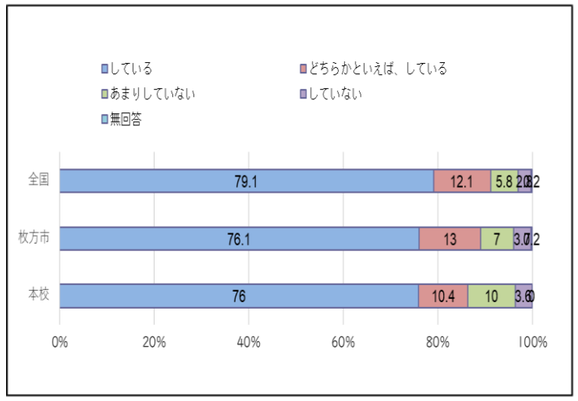
（考察）

ICT 活用については、一昨年度まで実施していた文部科学省事業の成果が表れており、タブレットが筆記用具の一つとして当たり前のように授業で活用されている。

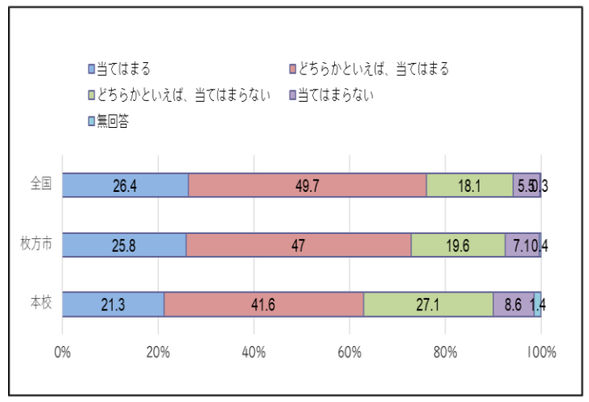
また、本校では班づくりに力を入れ、班長会を中心とし、学習などにも全員が参画できるような班づくりを全学級で実施しており、その成果として自分の考え方を安心して発表できる空間が醸成されつつある。また、相手にうまく伝わるよう自ら主体的に工夫をする習慣が身についていると考えられる。

【課題が残った項目】

朝食を毎日食べていますか



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



（考察）

地域とのつながりが希薄化しつつある昨今、自分が生まれ育った地域に貢献しようという気持ちも薄くなってきている。できる限りホンモノに触れ、地域社会とつながる機会を学校が中心となってつくっていく必要がある。

ここ数年で朝食を毎日食べていないと回答している生徒が着実に増えている。健康のためにしっかり朝食を摂取することができるよう、生徒や家庭にも声かけをしていく必要がある。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

（1）授業改善について

基本的な知識理解は定着しつつありますが、そこで得た知識をどう使うか、どの場面で使うかにつながっていないことが課題としてあげられます。用語や公式は覚えられていても、正しい理解ができていない部分があるためにそのような結果になっていることが考えられます。これに対し、「自己を調整する力を育む」が今年度の学力向上テーマでもあり、現在それに向けた取り組みを進めている最中です。

今後も得た知識や技能を適切に活用できるよう、普段の授業で生徒に考えさせる課題の工夫や、教師の発問（問いかけ）の研究など、より生徒が思考できるような場面を日常的に取り入れていきます。具体的には、従来の知識伝達型の授業ではなく、仲間とともに課題解決をしていくような授業や、自ら学びを選択して進められるような授業を適宜取り入れていけるよう研究を進めて参ります。教師主導ではなく、教師が伴走者として、より丁寧に授業のサポートができるような体制を整えて参ります。他にも、各教科で知識定着を見取るための小テストや単元テストの実施を随時行うとともに、設問の工夫を行い、より生徒が思考を深めながら取り組める問題を増やしていきます。

また、2、3学期には教員間の相互授業参観を行い、教員1人1人の指導技術の向上を目指していくことや教科会での指導方法の検討・検証などもこれまで以上に充実していきます。

（2）家庭学習について

家庭学習において一番大切なことは、日々の学習した内容について自ら課題を見つけ、自ら学習を進める力を養うことがあげられます。それはまさに、本年度の学力向上テーマである「自己を調整する力」であります。今回の学力・学習状況調査の結果をもとに、今求められている学習を自ら率先して行うことができるよう、各教科内で指導を行っていくとともに、担任と教育相談などを通して指導してまいります。

その一方で、今回の質問紙調査の結果において、家庭での学習時間は全国に比べて多いことがわかりました。校外の習い事などで出される課題などに取り組んでいることが考えられます。そこで、家庭学習として出す課題の精選を行うとともに、教科の授業の中でも自分のペースで学習できる時間や自分の分からないことを質問できる時間を設け、その中でも家庭学習につながるアドバイスなどを行うことができるよう指導を工夫してまいります。

ご家庭におきましても、本校の学力向上における取組をご理解の上、お子さまが学力（自己を調整する力）を育めるよう、適宜声かけもふくめご協力よろしくお願いします。